

読みたい本がいつもある 読書の日常化・習慣化を目指した「読書生活シート」の開発

1 活動の概要



川上小学校では、言語活動の充実を重視したカリキュラム・マネジメントの推進に積極的に取り組み、教科学習における読書活動を核とする単元開発や、学校図書館の利活用を通じた授業改善が組織的継続的に行われている。

目指す子どもの姿として「常に読みたい本がある」「読みたい本の優先順位がある」「何度も繰り返し読みたい本がある」等を想定しながら、学校全体で、自立した読者の育成を目指している。

その取組の一環として、それぞれが読んだ本の記録をする「読書記録」としての機能だけでなく、これからの自分の「読書計画」につながる機能をもたせた「読書生活シート」を独自で開発し、活用している。

2 活動の状況、実際

実際の読書生活シートには、「年間のめあて」「振り返り」の欄の他に、日本十進分類表にそって記録された「読書記録」や「心に残った本」、次に読みたい本が記されている「読書計画」の欄などがあり、シートのデザインや記入事項も子どもたちが自由に構成できるなど、意欲的・計画的に取り組めるしかけが組み込まれている。

子どもたちはタブレット上で、読書履歴を記録したり、他者から紹介された本を読書計画に加えたりするほか、シートを媒介として友達と会話するなど、コミュニケーションツールとしても活用している。



▲ 高学年用「読書生活シート」例

3 参加者、指導者等の声



【校長先生の声】

○読書は目的ではなく「自分づくり」のための手段の一つです。
この読書生活シートは「読書履歴」のようにこれまでの読書を振り返るだけでなく、これからの読書計画を立てる「前を向く」シートとなっています。今後「いつ尋ねても読みかけの本がある」子どもたちになってほしいと願っています。

【先生の声】

○読書が手段となり、クラスの枠を越えて、異学年同士の交流にもつながっています。日常的にお互いに本を薦め合う姿が見られるようになりました。
○この読書生活シートの取組は、子どもたちにとって「自分ってこういう人間」というように、自分自身の発見にもつながり、自分のことを知ってもらうツールにもなっています。

